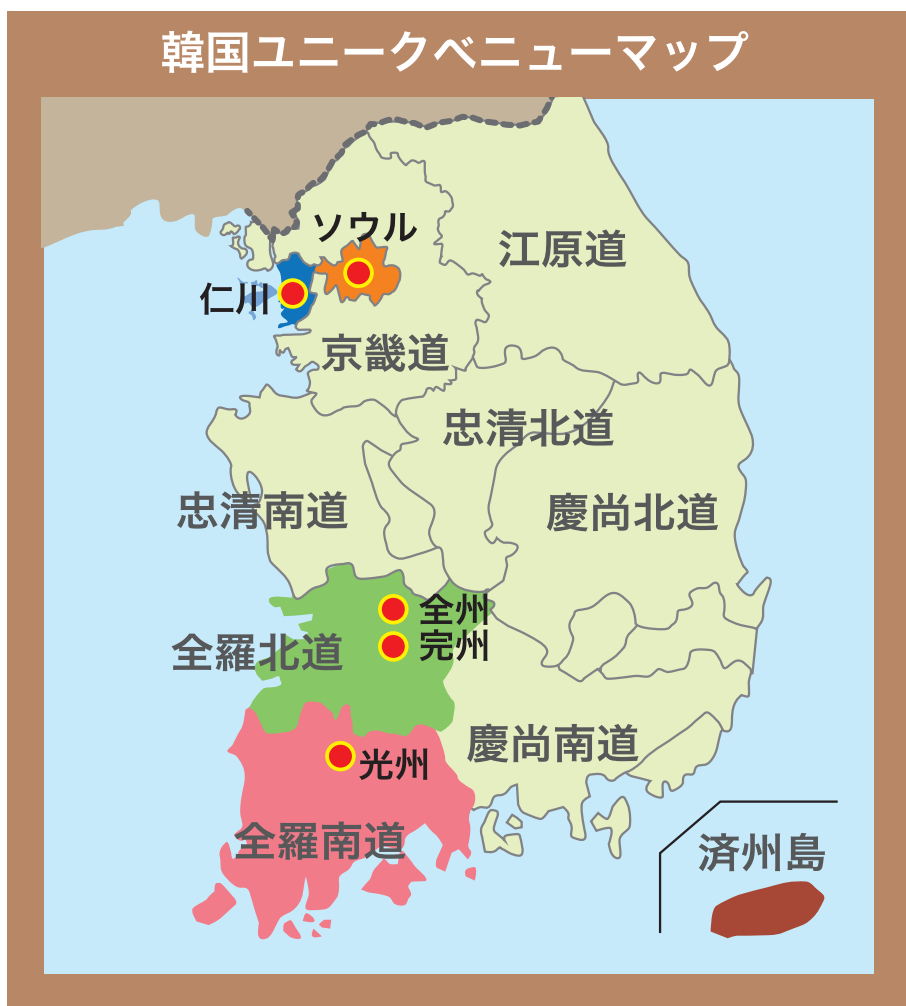




国際会議、企業会議などMICE開催地として注目集める「韓国」 世界が認めるユニークベニューで特別感、サプライズを演出する

ウリエットル博物館



2019年に新たに選ばれた「コリアユニークベニュー」。
国際会議、企業会議を種類や規模を問わず受け入れが可能で、
歴史、文化、未来を感じる環境は国際会議主催者から高い評価を得ている。
韓国観光公社が勧める“2020年韓国のユニークベニュー”を紹介する。



世界的に大ブームとなり、日本でもブームが再燃する No.1 韓流コンテンツ「K-POP」。本場である韓国で、K-POP だけでなく、数多くの旬な文化公演やおいしい料理を楽しむなら「JUST KPOP」は外せない。JUST KPOP は、2018 年末に韓国で初めてオープンしたエンターテインメント型の K-POP レストランとして、ライブやショーはもちろん、グルメまで満喫できる。充実した照明、音響設備を備え、K-POP 以外に K-ヒップホップ、ピーポーイング、ダンス、ポップ、ジャズ、フュージョン国楽（古典音楽）、打楽器パフォーマンスなどが楽しめる。
住所：ソウル特別市 松坡区 新川洞 29 ロッテワールドモール 5,6F
収容人数：400人 HP：http://jp.justkpop.co.kr/



韓国のトル(石)文化に触れられる「ウリエットル博物館」。世界各地に散らばっていた韓国の石造遺物を集めた石造専門博物館で、約 1300 点を誇る石造遺物や韓国の近代現代作家による絵画作品が展示される伝統と現代が共存、融合した空間となっている。散策可能な屋外庭園もある文化展示空間には、会議室やソウルを一望できる屋上テラスもある。「ワールドバンク」「UNWTO 世界都市観光総会」など、さまざまなイベントが開かれている。
住所：ソウル特別市 城北区 大使館路 13 キル 66
収容人数：250人 HP：http://www.koreanstonemuseum.com/en/



全州は、韓国の中でも伝統や文化芸術に対する愛情が深い街。伝統のソリ（音楽）と文化芸術を心行くまで楽しめる空間が「韓国ソリ文化の殿堂」だ。地下1階、地上3階には、2000 席を超える規模の多目的ホールであるモアク堂、約 600 席規模の公演会場のほか、会議やシンポジウムなどが開かれる国際会議場などが完備されている。「全州世界ソリフェスティバル」「世界初動全羅北道ビエンナーレ」などが開催されている。
住所：全羅北道 全州市 徳津区 徳津洞 1 街 山 1-1
収容人数：2000人（多目的ホール）HP：http://www.sori21.co.kr/english/index.jsp



「至密」は、王の寝室を意味する言葉。王の至密は、全州の美しい自然の中に佇む韓国の伝統家屋「韓屋」で、最大 232 人が宿泊できる。現代的なコンベンションセンター、韓屋ゼミナールホール、レストランのほか、カフェやコンビニなどの施設も充実しており、ワンストップで全てが行える。「世界無形文化遺産フォーラム」「2019 東アジアユネスコ国家委員会会議」など国内外のさまざまなイベントが行われている。
住所：全羅北道 全州市 完山区 春香路 5218-07
収容人数：232人（宿泊）HP：http://royalroom.co.kr/



韓国の伝統文化を語る上で寺刹文化は欠かせない。泊まり込みで修行体験ができるテンプルステイや山寺での茶会などは、世界から韓国を訪れる人に人気のコンテンツだ。伝燈寺（チョドゥンサ）の「伝燈」とは、「灯りを伝える」ことで、仏法を師から弟子に受け継ぐことを意味している。伝燈寺では、韓屋の座敷で会議が行えるほか、好天時には事前に許可を得て屋外イベントも開催できる。
住所：仁川広域市 江華郡 吉祥面 温水里 635
収容人数：40人（宿泊）HP：http://www.jeondeungsa.org



全ての人たちに開かれた文化芸術空間である「国立アジア文化殿堂（ACC）」は、5.18 光州民主化運動（光州事件）の現場にある。「アジア文化センター都市」を掲げる光州にある施設では、アジアの文化をテーマにした創作、展示、公演活動などが行われている。「歴史がランドマークの前で見劣りしないように」という建築家の思いが込められ、中に入ると地下に文化空間が広がる。現在は、アジアの文化交流や連携の場として役割を果たしている。「韓・ASEAN 特別文化長官会議」「ACC ワールドミュージックフェスティバル」「光州ビエンナーレ」など大規模な国際イベントが開催されている。
住所：光州広域市 東区 光山洞 13
収容人数：500人 HP：https://www.acc.go.kr/jp



「本来の形態」を意味する「ポンテ博物館」。人類本来の美しさを探るため、日本人建築家の安藤忠雄氏の設計で 2012 年に開館。周辺の環境との調和を考慮した建物は空と調和し、淡白でありながらも圧倒的なスケールを感じさせる。韓国伝統工芸や現代アートなど 5 つの展示空間から構成され、美的な視点を誇る品々がそろった。格式高い個性的なイベント会場として、「第 2 回 AIIB（アジアインフラ投資銀行）年次総会」など開催されている。
住所：済州特別自治道 西帰浦市 安徳面 山麓南路 762 番キル 69
収容人数：60人（スクール形式）、150人（bonte garden）
HP：http://www.bontemuseum.com/eng_new/main.php



1890 年代の藁葺きの家や伝統家屋「韓屋」が 90 軒以上保存された野外博物館ともいえる「済州民俗村」。済州島の歴史や文化を、山村・中山間の村・漁村のエリアに分けてリアルに再現され、建物は実際の建材を移設し復元するほか、生活用具など約 8000 点の資料が展示されている。サムルノリなどの民俗公演も定期的に行われている。「チャレンジ済州国際トライアスロン大会レース フィニッシュ」及び閉幕式や企業の大規模なインセンティブ行事など大小さまざまな催しが開催されている。
住所：済州特別自治道 西帰浦市 表善面 民族海岸路 631-34
収容人数：400人
HP：http://www.jejufolk.com



韓国観光公社 東京支社おかげさまで 50 周年